

詰将棋全国大会レポート（12）

第12回全国詰将棋大会

1996年5月

北九州市 ひびき荘にて

参加者 62名

詰将棋パラダイス 1996年4, 6月号より

全国詰将棋大会

〔主催〕全日本詰将棋連盟

〔後援〕詰将棋パラダイス編集部

〔日時〕平成八年五月四日(土) 十二時より受付

〔場所〕ひびき荘 (北九州市小倉北区
大門一—一十七 ☎093-581-5673) JR小倉駅より車で5分。
JR西小倉駅より徒歩3分

〔内容〕(多少時間のずれあり)
①十二時~十四時(自由時間)
書籍販売、バラ既刊号(記念号)の
展示、アマ連主催「握り詰」、その他催
し物

②十四時~十六時半(第一部 式典)

会長挨拶、来賓挨拶、実行委員長挨拶、各委員会報告(全詰連幹事各委員

長)、看寿賞発表並びに授賞式、詰将棋
段位授与式、参加者全員の一人一言、
記念写真撮影

③十七時半~二十時(第二部 懇親会)
立食パーティー、「握り詰」優秀作表
彰

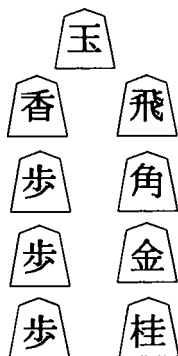
〔参加費〕五千元(高校生、女性は三
千元、ただし第二部不参加者は千円)

〔参加申し込みについて〕会場の準備
などの関係から四月十日までに必ず入
尋までハガキにて申し込みをお願いい
たします。参加費は、大会当日に受付
にて集めさせていただきます。また宿
泊については、一泊三千円程度で準備
したいと思えます(予約が必要)。宿泊
希望者は参加申し込みと同時に宿泊希
望日(前日、当日)、宿泊者氏名、性別
をご連絡下さい。(締切厳守)

〔連絡先〕第十二回全国詰将棋大会実
行委員会。委員長：八尋久晴(二八〇
七—一北九州市八幡西区千代五—一
— ☎093-618-2422)

全国大会握り詰 ~アマ連杯~

昨年からはまりました握り詰です。



これだけの使用駒で詰将棋を作っ
て下さい。一人一作に限りませ
締切：4月15日必着(編集部宛)
大会当日展示、投票により優秀作
と佳作を決定(不完全作の返送連
絡は致しません)。

■呈賞：優秀賞、佳作賞等賞金総額
5万円。(提供：アマチュア将棋連
盟)当日表彰を行います。奮って
ご応募下さい。

1996年度 全国詰将棋大会

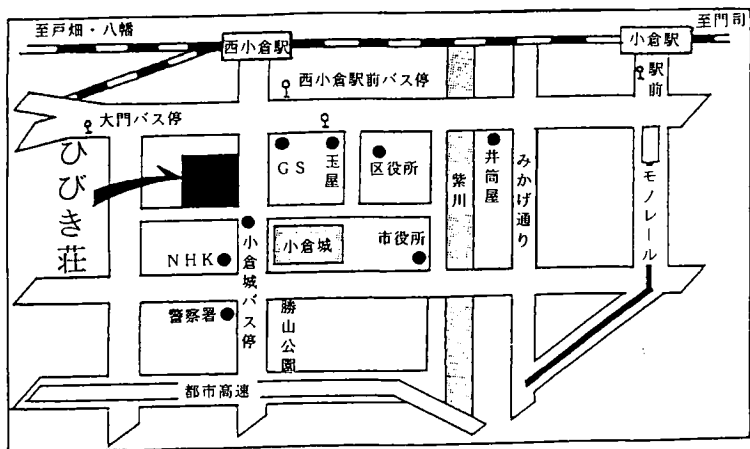
主催／全日本詰将棋連盟
後援／詰将棋パラダイス編集部

日時 5月4日(土) 12:00~20:00

会場 ひびき荘(北九州市小倉北区)

☎093・581・5673

- ①JR小倉駅より車で5分
- ②JR西小倉駅より徒歩3分



平成8年度

全国詰将棋大会報告

■平 正利

第12回全国詰将棋大会が5月4日に

福岡の小倉「ひびき荘」にて催され、

全国から62名の方が参加されました。

大会内容は次の通り。

■受付及び自由時間

・書籍販売(詰パラ編集部)

・データベースのデモ

(データベース委員会)

・大会記念握り詰作品展示及び投票

(日本アマチュア将棋連盟)

・チェスプロブレムコーナー

(講師：若島正)

・パラ既刊号(記念号)展示

(提供：森 茂)

・記念誌「続あゆみ」配布

■第1部(式典)

挨拶

全日本詰将棋連盟会長 岡田 敏

実行委員長 八尋久晴

詰将棋パラダイス代表 水上 仁

・各委員会報告

データベース委員会 門脇芳雄

規約委員会 若島 正

詰棋書保存委員会 森田正司

会計 小島正司

段級位審査委員会 小島正司

・段位贈呈式

・看寿賞発表ならびに授賞式

・参加者全員の一人一言

■第2部(懇親パーティー)

【参加者】

岩手 原田章雄

埼玉 稲葉元孝 宮地 寛

千葉 村山 勉

東京 秋元龍司 金子清志 小林敏樹

佐藤宗弥 角 建逸 原岡 望

森田正司

神奈川 門脇芳雄 門脇美智子

山下雅博 柳田 明

三重 清水一男

京都 田代達生

大阪 飯山 修 猪股昭逸 小島正司

長谷繁蔵 弘光 弘 水上 仁

柳原裕司 若島 正

兵庫 堀内 真

奈良 岡田 敏

岡山 堀切良太

島根 高見秀夫 堀越文夫

広島 秋本浩志 永野 浩

山口 間鍋 功

香川 井内直紀



愛媛 来嶋直也 山本善章
福岡 内山哲郎 江口恭一 江崎正美
尾石 勉 岡山 晶 越智則幸

川村信幸 倉掛又一 佐賀晴幸
酒井博久 芝田雅規 砂田淳一

禅院政利 平 正利 仲井 剛

中岡清孝 西田 弘 森 茂

屋並仁史 八尋久晴 李 源台

大分 宗岡博之

佐賀 太田慎一 樋渡喜久磨

長崎 石川和彦

熊本 小西逸生

〔寄付〕(敬称略)

河内勲(ピール券) 北村憲一(二万円)

秋葉原ラジオ会館(五万円) 詰将棋研

究会(クイズ賞品) 浦野真彦(五千元)

近代将棋社(書籍、売上金五千五百円)

東京詰将棋工房(書籍、売上金四千元)

安平昭二(二万円) 飯沼良昭(テレホ

ンカード) 詰将棋研究会(二万円) 門

脇芳雄(五千元) 森茂(二万円) 佐藤

宗弥(五千元) 小島正司(書籍)

参加者60名突破!

生憎の悪天候でしたが、飛び入りの方も含め、何と62名もの参加がありました。式典が始まるまでの自由時間には歓談をする方、将棋を指す方、詰将棋を解く方、各出店コーナーへ向かう方と人それぞれ楽しんでおられました。

出店は、書籍(新刊や話題の詰将棋)の販売、データベースのデモ(パソコン)を使用して実演。数万題の詰将棋が入力した後に画面に表示された自作を眼にし、感激する方、多数、握り詰コンクール(作者名は伏せてある。解付き)への投票、チェスプロブレム解説(この解説を聴くただけに来場したという方もいる程の人気)、バラ既刊号の展示(中にはマニア垂涎の希少本もあった)など。又、参加者全員に記念誌



「続あゆみ(佐々木寛次郎氏の労作)が配布されました。佐々木さん、この場をお借りしましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。」

午後二時になり、中岡清孝氏の司会
で式典の開始。全詰連会長・岡田氏、
実行委員長・八尋氏、詰バラ代表・水

上氏の挨拶と続きます。今回で12回目
を迎えた全国大会ですが、「今後、通算
で10回参加を達成した方」には記念品
を差し上げる旨の発表がありました。
ますます参加欲が高まりますね。又、
来年度以降はGWを避ける日程にした
いとのこと。これは、家庭サービスな
どのためにGWだと参加しにくい方の
ことを考慮したものです。

段位贈呈

井内直紀氏に五段位が贈呈されまし
た。「知らぬ間にできた一局を以て感想
にかえます。持駒は……」という氏の
受賞コメントが印象的でした。

看寿賞発表

平成七年度看寿賞が発表された。
短編賞・小林敏樹氏、中編賞・若島
正氏、長編賞・堀内真氏の各氏が受賞

された。詳細については発表記事をご
覧下さい。

懇親パーティー

第2部はフロアをかえて、立食パー
ティー形式で行われた。第1部の司会
で好評を得た中岡氏がここでも抜群の
司会を披露される。八尋氏の挨拶の後、
森田氏の乾杯の音頭でスタート。

程良くアルコールがまわった頃合い
に、第1部で投票された握り詰の結果
発表。優秀作は堀内氏、佳作は斎藤吉
雄氏の作品。看寿賞も受賞した堀内氏
は「賞金稼ぎ」の野次を飛ばされ、大
テレでした。

その後、賞品付きクイズ大会が行わ
れました。三者択一形式で三名が勝ち
残り、太田氏が優勝しました。考慮時
間僅かに10秒という厳しい制約でした
が、条件反射に滅法強い太田氏に勝る
人はいなかったようです。

「一人一言」より

岡田敏一毎週金土日の3日間は町の文化教室で将棋を教えています。最近は一桁ものの短編を量産しており、老化を防止しながら詰将棋の普及に努力したいと思います。

森田正司―作品集作りのお手伝いをしています。自分自身のも作り直さなうといけませんので、年に2冊が限度かなと思っております。現在仕掛かり中のがいくつもあり、そのうち山田修司さんが出る予定です。

門脇芳雄―大学の研究でコンピュータで詰将棋を作るといのが始まりまして、そのアドバイスをしたいと考えております。ここ数年、コンピュータの創作力が上がるとは思いますが、その黒幕として何かやりたいと思います。

水上仁―最近是指す方も結構面白い。

詰将棋も全く作っていない訳ではありません。合駒絡みのやつを企画中で浦野真彦七段にときどき見せたりするんですけど最近嫌がられてまして、どうせまた合駒でしょ、という感じであり見てくれないんですね。

小島正司―ユニークなコラムの入った詰将棋の館という本を発行してまして、現在41冊目になっています。1冊200円でやっていますのでよろしく願います。

柳田明―今年作家として忘れられないうちに活動しようということ、近代将棋と将棋世界に投稿して無事に入選させていただきました。最近では依頼生産でしか作れない男になってきました。そのおかげで余剰生産物がチヨロチヨロと出来るんで、こんなに出来るのは久々だなあと今年になっています。

清水一男―来年は名古屋で全国大会という話を聞いて責任を感じています。



名古屋に近藤真一君がおられまして香龍会の会報を書いております。その会報を見ますと、彼が中心にやってももらえる立派な綺麗な大会が開かれるんじゃないかと期待しています。八尋久晴―駄作を図々しく投稿し続けて同人作家の仲間入りをさせていた

だきました。実力不足の人達にとっ
ては励みになるんじゃないか、今ま
で同人として頑張つてこられた方
には、同人作家の格を下げてしまつた
といわれるんじゃないかと思つてお
ります。

若島正—私の名前がある人名録に出
て、肩書として、詰将棋作家（京
都大学助教）と出ているらしい
ので、これからは詰将棋作家から足
を洗つてカッコがない京都大学助
教にならうと思つております。

角建逸—最近の仕事が忙しくて駒もほ
んど触つてない、詰バラも封した
ままという状態です。仕事の方を
抜きして詰将棋活動に戻りたいな
と思つています。

柳原裕司—50号のことで頭が一杯です。
500というのは凄いな数字ですから素
直に記念号を作りたいと思つてお
りますので、皆さんのよいお知恵を
頂ければと思つております。

金子清志—詰工房での場所取りの実績
が評価されて再来年の全国大会のま
とめ役をやらせて頂くことになりま
した。先程、清水さんから名古屋で
やるときのアイデアをくださいとい
う話がありました。そういうアイ
デアは東京の方に回してください。

小西逸生—現在は詰将棋というもの
時間を割くということがほとんどな
くなりしました。少し疎遠になつてお
りますので大いに反省をしております。
初入選が昭和27年8月号でした
ので後6年ほどで満50年を迎えるこ
とになります。そのときに古いもの
を取り混ぜてあと1回作品集を考
えております。今日は本當にうれし
い日でございます。ありがとうございます
でした。

堀越文夫—皆さんの作品と名前は知
っているんですが、今日初めて見ま
して、こういう方がこういう作品を作
られてたのかなあという感じがして



います。

太田慎一—今日は全国大会の写真撮影
係ということになっています。

平正利—よく余詰指摘で名前が載るん



ですけれども、作意より先に余詰筋を検討するような癖がついてしまつて困つたものだなと思つています。創作の方も例のごとく馬をちよこちよこやりながら合駒を稼ぐような作を作つていきたいと思つています。猪股昭逸―ひよんなことから今年度か

ら創棋会のお手伝いをするようになりました。創棋会がどんどんメンバーが増えて、いい作品が集まつて、皆さんで楽しくやれたらなあと思つてます。

山本善章―徳山から愛媛に転勤になり交通の面で苦労しとるんです。仕事もかなり忙しいんですけど、頑張つて皆さんのお目に止まれるぐらいの作品を作れたらいいと思つております。

長谷繁蔵―今年一杯で定年になりますのでカムバックしたいと思つてもうぼちぼち投稿しています。作品が出ましたらAを入れて頂けたらと思つてます。

樋渡喜久磨―7月19日から佐賀県有田地区で開かれる世界焔博の推進委員としております。皆さんお出でになつたら一晩は無料にて家に泊めます。では非ご来場ください。

川村信幸―近代将棋の5月号に全国詰

将棋云々と書かれていたのを見て、たまたま今日ここを通りかかったのでちよつとのぞいてみました。20数年前、職場の機関誌にたった1回だけ作品を載せたことがあります。それ以来作つていませんが、寝るときにはよい睡眠薬代わりになっていきます。

飯山修―今年は九州と聞いて、これは家の者を騙して来るのは無理だなと思つてたんですけれども、去年の11月に入社24年目で突然単身赴任になりました。来年もまだ単身赴任が続いていたら名古屋にいきたいと思つてます。

酒井博久―下手な話もなんですから作品で自己紹介したいと思つています。玉方12角、13玉、14歩。解いてもらえばわかると思つていますけど、王手していけば詰みます。

原岡望―たまたま森田さんと近くに住んでいるので新幹線でご一緒させて

いただきました。ただ一緒にいるだけで大作家の秘密がわかったような気がして、多少詰棋の力がアップしたんじゃないかと思っています。

宮地寛―詰バラで右往左往しながら短大の担当をやつてまして、やつとお役ご免になるところです。元々が解答専門なのでこれからまた解答に専念していこうと思つています。

秋元龍司―以前よく作品を出していた頃に一緒に活躍されていた吉村達也さんや近藤郷さんが復活されてますし、小林さんが看寿賞ということになるとまた刺激を受けずにはいられません。

秋本浩志―詰将棋の全国大会に出ると近所の人に言いましたら、あんたはそんなに凄いんかって勘違いされました。

李源台―岡田さんの名前を自分勝手にサトシさんと読んでたんですけど、最近活字でオカピンと書いてあった

▲車イスで参加の小西逸生氏



のでほんとにオカピンかなあと思つてました。

原田章雄―5月2日に家を出て東京競馬場、小倉競馬場を経由してやってきました。帰日も益田競馬場と園田競馬場を経由して5月7日に家に着く予定です。

山下雅博―実家に置いてある昔の詰バラを見るといろいろ書き込みがしてありました。最近の詰バラは非常に

綺麗です。少しは昔のように一生懸命やりたいと思つています。

堀内真―私の看寿賞受賞作が3秒くらいでしたが、テレビに出ました。考えてみるとこれは凄いことではないかと思うので、皆さんもテレビに出るのを目指してみたいかがでしようか。

小林敏樹―今日ここに来た主目的はチエスプロブレムを広めることです。日本チエスプロブレム協会というのを若島さん中心に設立いたしました。そちらの会計とか事務局的なことをやっております。

間鍋功―柏川香悦さんの作品集を見て詰将棋は凄いもんだなと思つた。

石川和彦―ヤン詰の担当を降りてから指将棋に凝つていて、県代表を目指しております。決勝まで3回行ったんですけど、長崎県では準優勝男と呼ばれています。

仲井剛一最初は周りの人がみんな天才に見えたんですが、話を聞いてると同じような人が何人かおられるので少し安心しました。

江口恭一—コンピュータ関係の仕事をしているのでデーターベースに興味があります。今日、一番嬉しかったのは江口という名前の作家が私一人しかないというわかったことです。

中岡清孝—今月の5月号で、発表局数は通算110となりました。そのうちの8割は実戦取材で日本唯一の実戦取材作家と自負しております。

何回も

▶実行委員長の八尋氏、お疲れさま



賞懸 全国大会握り詰

4月号で募集した「全国大会握り詰」(アマチュア将棋連盟提供)に多数のご応募をありがとうございました。当日参加者の投票で入賞した3作を懸賞出題いたします。

〔締切〕6月末日消印
〔呈賞〕3名

② 佳作 (2位) 入選13回 斎藤吉雄

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						歩	王	
			金	角				
			飛					
					桂			

持駒 香歩

③ 佳作 (3位) 入選46回 秋元龍司

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						歩	王	
								馬
			飛			歩		

持駒 金桂

① 優秀作 (1位) 入選15回 堀内 真

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								歩
								飛
								王
								馬
								王
								馬
								王
								馬
								王

持駒 なし